

「ちょっといなか」に泊まろう

東いぶり民泊体験モニタープログラム

<おとなりの町へー晩お泊り体験>

【目的】

1. 参加する子どもたちの目的

- 近くても案外知らない隣の田舎町において、ホストファミリーのお宅へ泊お世話になり、隣の田舎町の暮らしを知る事やお宅の方や地域の方々との交流を通じて、人とのふれあいの温かさや、身近なところに「信じてよい大人達」がいることを実感する。
- 民泊という手法で、なかなか知る事ができない東胆振の魅力を体感することを通して、発地側における有機的な情報発信者（口コミによる広報）を創出する。

2. 受入地域の目的

- 子どもたちの体験活動や、民泊の受け入れに興味はあるものの、実際に受け入れに踏み切れない家庭に、お試しとして子どもの民泊受け入れを気軽に体験してもらうことで、地域の民泊の受け入れ間口を広げていくことを目的とする。
- 民泊にやってくる近隣都市の子ども、その向う側にいる父兄へ向けて東胆振の魅力を発信する手法を獲得してもらう。
- 農家をはじめとする生産者だけではなく、地域の一般家庭における民泊受け入れ先を広げるきっかけを創出する。

【手法として】

- ① 事前にホストファミリーになってくれそうな人達への声かけ、募集
- ② ホストファミリーへの事前説明会、参加者とホストファミリーのマッチング
- ③ 土日を利用した1泊2日のホームステイ。
- ④ 最終日に昼食プログラムを兼ねて参加者、ホストファミリー全体で活動の振り返りと共有
- ⑤ アフターフォロー（活動時の写真、お礼状の送付、アンケート実施など）を行い、参加者やホストファミリーの両サイドへヒアリングを行う

【その効果】

1. 参加する子どもたちへの効果

- 親元を離れ、家庭や学校以外で知らない方々と出会い、お世話になるという経験ができる機会がほぼない今の子ども達に、コミュニケーション能力の向上や道徳感の醸成、自立的な行動様式を身につけるきっかけを得る事ができる。

2. 受け入れ地域への効果

2	2月15日	<p>各受入先で朝をゆっくり過ごす</p> <p>11:00 厚真町に集合【ありがとう・さようならの会】 昼食を囲みながらホストファミリー、参加者それぞれの思いを振り返り</p> <p>13:00 厚真町解散 子ども達はバスで苫小牧へ</p> <p>15:00 苫小牧解散</p>	
---	-------	--	--

予

定 12月中旬 概要作成、予算見積、仮手配

ホストファミリーになってくれそうな方への声掛け、集約

12月下旬 ホストファミリー,子どもの受入の人数決定。参加募集案内チラシの作成

1月正月明け モデルプログラム参加募集開始

1月25日 募集締切、人数の確定、参加者とホストファミリーのマッチング

2月第1週 要望に応じて事前説明会 (または個々に適時)

2月14日～15日 実施

終了後 参加者、ホストファミリーへ感想などアンケート調査やアフターフォロー